

総務常任委員会所管事務調査報告書

1 調査事項 市民が望む庁舎建て替えについて

2 調査目的 市民の望む市庁舎建て替えをめざすため、現状の把握や課題の抽出を行い、市民サービスの方向性、防災機能、DX(デジタルトランスフォーメーション)や環境への配慮の視点で調査・検討を行う。

3 経過

【委員会・勉強会】

○令和3年6月14日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて、市から建て替えに向けて多摩市役所本庁舎建替基本構想（以下、「基本構想」）の策定に着手する旨の報告があった。
- ・「市民が望む庁舎建て替えについて」を所管事務調査として位置付けた。

○令和3年9月2日 総務常任委員会

- ・市民意見の取り入れが基本構想策定に重要であるため、今後、市側との意見交換を行い、その中で市民意見を取り入れるよう要望していくことを確認した。

○令和3年10月4日 勉強会

- ・市職員で構成された「多摩市役所本庁舎建替基本構想策定委員会」と5名の有識者からなる「有識者懇談会」を設置し、有識者懇談会からの意見を受け基本構想を策定していくことについて報告があった。

○令和3年10月12日 勉強会

- ・市側から、今後のスケジュールと進め方について改めて説明があった。
 - ①基本構想は、策定委員会（庁内）、有識者懇談会（庁外）で検討を進める。
 - ②有識者懇談会は、今年度は2回（12月、2月）、来年度は4回開催予定。
- ・今後行われる市民アンケートについて説明あり。
- ・市の進め方の報告を受け、有識者懇談会の開催の都度、市から報告を受けることを確認した。報告のタイミングは即時性を重視し、次の定例会を待たずに閉会中に勉強会を開催し報告を受けることも可とした。

○令和3年12月10日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて、有識者懇談会の設置と市民アンケートの実施について市から報告を受けた。

○令和3年12月17日 「第1回多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」

傍聴

- ・基本構想策定の検討の進め方について
- ・本庁舎建替えの背景とこれまでの経過について
- ・本庁舎の課題と建替えの必要性について
- ・将来の市民サービスのあり方について 等

○令和4年2月21日「第2回多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」傍聴

- ・「多摩市役所本庁舎建替についてのアンケート」について
- ・将来の市民サービスのあり方について 等

○令和4年2月25日 勉強会

- ・令和3年12月17日の第1回有識者懇談会及び令和4年2月21日の第2回有識者懇談会について、市から報告を受けた。
- ・議会棟の在り方について、有識者の窓口の縮小化等についての認識について、有識者に求めるものとその人選について質疑を行った。

○令和4年3月18日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて、第1回および第2回有識者懇談会と市民アンケートの実施結果について、市から報告を受けた。

○令和4年5月30日 勉強会（全議員対象）

- ・全議員を対象に、市から本庁舎建替基本構想策定の構成案とスケジュールについて報告があった。

○令和4年5月30日 「第3回多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」傍聴

- ・「多摩市役所本庁舎建替についてのアンケート」の結果について
- ・「将来の市民サービスの姿」と「本庁舎の基本機能」について
- ・今後の懇談会等の進め方について 等

○令和4年6月6日 勉強会

- ・第3回有識者懇談会の実施結果について市から報告
- ・他、有識者の見解についてや市民説明資料について質疑を行った。

○令和4年6月21日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて市民アンケートの結果及び市民フォーラムの開催予定について、市から報告があった。

○令和4年7月19日 勉強会

- ・開催が予定されている市民フォーラムについて市から報告があった
- ・建て替え場所について市民から意見があった場合の対応について、ウェブでの申し込みができない人への対応について質疑があった。
- ・市民フォーラムの参加人数を増やすべき、若年層の参加を促進すべきといった要望

があった。

○令和4年7月30日、8月27日 「第1回多摩市役所本庁舎建替についての市民フォーラム」傍聴

- ・本庁舎の建替えに向けた検討状況の報告
- ・有識者からの話
- ・意見交換 等

○令和4年8月8日 「第4回多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」傍聴

- ・基本構想の骨子（案）について 等

○令和4年8月17日 勉強会

- ・第4回有識者懇談会の実施結果について市から報告を受けた
- ・基本構想上の「災害時の役割」の記載について、「市の活性化」における市庁舎の役割について、市庁舎の位置について、「アクセス性」という文言の意味合いについて、多摩センターでの市のサービス機能の展望について質疑があった。

○令和4年9月12日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて、実施された市民フォーラムについて市から報告を受けた

○令和4年10月31日 「第5回多摩市役所本庁舎建替基本構想策定有識者懇談会」傍聴

- ・基本構想（素案）について
- ・提言書について 等

○令和4年11月26日、27日 「第2回多摩市役所本庁舎建替についての市民フォーラム」傍聴

- ・多摩市役所本庁舎建替基本構想の素案の説明
- ・意見交換 等

○令和4年12月12日 総務常任委員会

- ・委員会協議会にて、実施された有識者懇談会、パブリックコメント、市民フォーラム、政策情報誌の配布について市から報告を受けた。

【視察】

現に建て替えの取り組みを進めていた府中市役所、令和3年に建て替えを終えた清瀬市役所への視察を実施した。

○令和3年11月4日 府中市役所視察

- ・市民意見聴取の手法について

（1）意見聴取手法の工夫

説明会やパブリックコメントを行ったが、参加者は時間のある年齢層に偏る傾向は

ある。改修事業を知ってもらうことが重要であるため広報特集号やかわら版、工事の仮囲いにデジタルサイネージを表示するなどの手法で周知した。

(2) どんな手法が有効だったか

- ①キャラバン隊として市職員が市内各所に出向いて説明。映像や模型使用が有効
- ②市・設計者・検討委員会主催のシンポジウムで市民からの質問にその場で答えた
- ③視覚、聴覚、肢体の福祉団体とは個別に意見交換した。完成時にも説明会を開催予定。

・その他質疑

(1) 市街地での建て替え工事としての工夫はどういったものがあったか

⇒十分な敷地面積の拡張が困難であることへの工夫…1階フロアでワンストップ手続きが可能な構成にすることが難しいため、2階までをサービス関連のフロアとし、エスカレーターにより回遊性を持たせた。また、マンションや戸建てが周辺に多いため、配慮した。

(2) 環境に対する配慮

(3) 工事費とコロナの影響

- ①コロナ禍の影響で事業者の稼働が遅く、都市内の工事で制約が多いことから見積もり期間は十分に取った
- ②入札の際はオリンピック需要も落ち着いた時期であったため他の工事が少なく結果として金額は事前の予想より抑えられた

(4) 他、用地買収等経費、建替用地の決め方、財源や補助金の活用、ユニバーサルデザイン対応のコスト、議会を交えた検討経過、備品や設え、駐車場について質疑を行った。

○令和4年5月13日 清瀬市役所視察

- ・市庁舎屋上での養蜂事業について…清瀬の基幹産業が農業であり、みつばちの受粉活動によって農作物の生育に寄与することに着目し実施した。
- ・現在の場所（旧庁舎と同じ場所）とした経緯
 - ①市域の中心であり、消防署等との連携が効率的に運用できる防災面からの利点
 - ②地域の活性化…駅から市の北部への人の流れを創出できる
- ・建て替え実施スケジュールについて
- ・その他質疑…議会フロアの面積、市民ワークショップについて、CM（コンストラクションマネジメント）の導入について、建て替え場所の選定の経過について、建て替えにあたっての市庁舎機能の見直しについて、職員数及び庁舎内の部署の配置について、社会情勢の変化について、駐車場について、財源について質疑を行った。

4 今後に向けての提案

令和3年(2021年)、第2回及び第3回定例会の委員会において、総務常任委員会の2年間の所管事務調査事項について話し合いを行い「市民が望む庁舎建替えについて」を調査事項とすることに決定した。

同時期に市側も「基本構想策定」に向けた、アンケート・フォーラムなどを進めることは認識していたが、「市民サービスの方向性、防災機能、DX環境」等の視点を考慮しながら、何よりも「市民は市役所庁舎に何を望み、どのような利便性を求めているのか」を建設場所も含め市民の視点で考えていく方向性で一致した。

しかし、この間は、新型コロナウイルス感染症の終息もみえないなかで、当初考えていたような視察や市議会としての市民への説明や懇談の場を持つことが十分できなかった。特に、春と秋の時期に3駅を中心におこなっていた「市民向け報告会」で市民の率直な意見を聴きとることができなかったことは当初予測できなかったことである。

一方、市側のアンケート項目のチェック、報告内容の検討、市民フォーラムや有識者懇談会の傍聴等を有効な機会ととらえ、多くの委員が積極的に参加してきた。また府中市と清瀬市だけにとどまったが、建設までの市民参加やDXも取り入れた新庁舎を見ることができたことは大きな参考となった。

2月に決定された「多摩市役所本庁舎建替基本構想」の策定にあたって、最終的に全員協議会を開催し、質疑や様々な提案をおこなう機会がもてたことは今後の展開にも大きく役立つのではないと思う。今後、基本設計、実施設計、工事の過程においても、議会が「市民の視点」で深く関与していくことが重要である。

そのようなことから、この所管事務調査を行った成果として、今後に向けての留意点等について、多摩市役所本庁舎建替基本構想の内容を踏まえ、以下何点か提案するので参考にしていきたい。

(1) 基本機能（市民サービス・防災指令拠点・行政事務機能）

- ① DXを推進し、市民が市庁舎に出向かなくてもほとんどの事務手続きを完結できるようにする。
- ② 災害時の本庁舎の役割と避難所との連携体制も市民に分かりやすく「見える化」しサービスのアクセス性の向上を図る。

(2) 建物性能（耐震・環境性能/ユニバーサルデザイン・セキュリティ）

- ① 環境に配慮した省エネと、再生可能エネルギーの活用などの創エネで建物としてゼロを目指してほしい。
- ② 平時・災害時を考え、可変性を備えた可動式の仕様で柔軟に対応すべきである。ユニバーサルデザインの観点からスロープも取り入れてもらいたい。

(3) 建築規模

- ① 職員一人当たりに必要な平米数の足し算で床面積を計算するのではなく、共有デスクスペースやテレワークの活用なども積極的に進め、市民や職員等、誰でもシェアできる空間を広く取ってもらいたい。
- ② 華美である必要はなく、最低限の広さを考えるべきであるが、職員の働きやすい環境を考え、福利厚生面に配慮したものであってほしい。
- ③ 職員の労働環境、非常時を含む人員体制に沿う規模と機能、自治体運営の中核であることを考慮した規模。

(4) 建設位置

- ① 現在の位置で建て替えを進めることについては、大方の市民の合意は得られているが、なお身近な駅前などでのサービス拠点も充実させる。
- ② 「サービスのアクセシビリティ」にシフトし、駅近でできることを増やしていく予定だが、本庁への交通アクセスも再編成すべきである。周辺道路の整備や、バス路線の充実など検討してほしい。

(5) 建設事業手法とスケジュール

- ① 事業手法は今後の重要な検討課題である。市民要望に応えながら「設計や施工の透明性の担保」が重要。
- ② 芝生広場などの種地に新庁舎の建設を進め、移動が完了したのち旧市庁舎を撤去する手順等が考えられるが基本構想確定後、市民代表としての議会も交えた十分な検討が必要である。

(6) 建替えの事業費（財源の考え方）

- ① 積み立て基金をベースとし、新たな借入れは最小限に留めるよう努力すること。
- ② 今後の社会情勢や物価高騰等の要因で事業費が変動することも考えられるが、都度、議会や市民に示しながら丁寧に進めてほしい。
- ③ 引き続き、基金の積み立てに努力し、各種補助金等の活用にもアンテナを張って財政負担軽減に努めてほしい。